西国街道に面する水路の石組みに注目すると、町屋の区画溝を境にして、東側の区画がより大きな石材を使用していることがみてとれます。また、土坑と重複していることから、古い土坑を埋めて石組みを積み直した可能性があります。

ほかにも土坑や柱穴がたくさん見つかり、近世から近代にかけて長い期間、建て替えを繰り返しながら、この地が継続して利用されてきたことが分かりました。

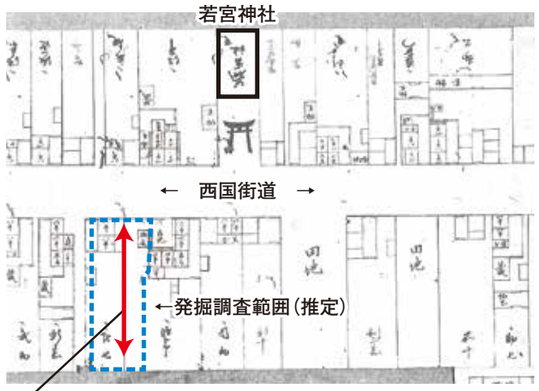

図3 竹内家文書「四日市街路家並絵図」
『西条町誌』1971から一部引用

写真5 西国街道南側の町屋跡完掘写真（南から）

写真6 陶磁器、土器などが大量に出土した土坑

東広島市出土文化財管理センター報
東ひろしまの遺跡 Vol.9
発行日 2020（令和2）年12月28日
発　行 東広島市出土文化財管理センター
〒739-2201 東広島市河内町中河内651番地7
TEL：082-420-7890 FAX：082-437-0320
編　集 東広島市教育委員会生涯学習部文化課
E-Mail hgh207890@city.higashihiroshima.lg.jp
印　刷 今谷印刷株式会社

東ひろしまの遺跡 Vol.9

酒造りの釜場遺構を確認!

四日市遺跡（西条本町）

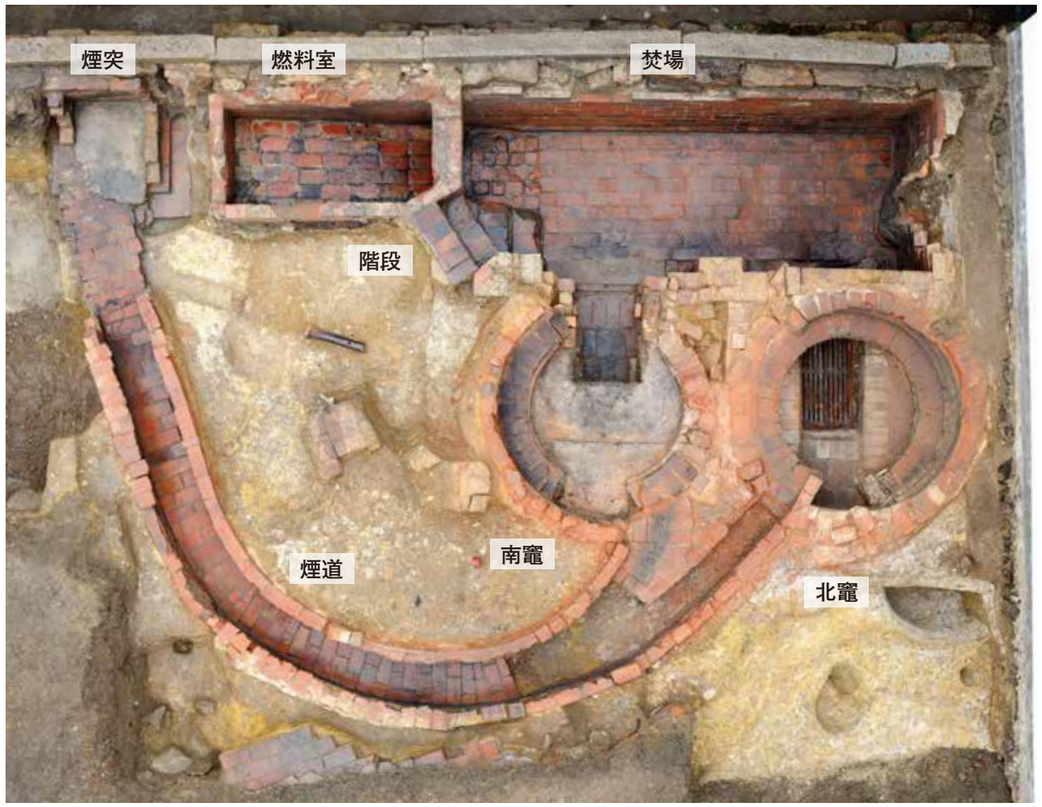

写真1 検出された釜場遺構（上から）

四日市遺跡は、ＪＲ西条駅南側に広がる弥生時代から近現代までの複合遺跡で、江戸時代の主要道である西国街道（近世山陽道）沿いに営まれた宿場町、「四日市宿」の町屋跡が主な遺構で、平成29年度に西条本町歴史広場建設に伴い発掘調査を実施しました。調査場所は、賀茂鶴酒造1号蔵の南側に位置し、調査区の北側から近代の釜場遺構が見つかり、調査区の南側からは江戸時代の町屋の礎石、土坑、ピット、町屋が火事で焼けた焼土層などが見つかりました。これらのうち釜場遺構については、多くの酒蔵が立ち並ぶ本市にとって貴重な遺構と判断されたため、発掘調査後、現地にそのまま埋め戻して保存しています。

調査で見つかった釜場遺構はレンガで構築されており、酒米を蒸すための大釜を据え付けた北竈、熱湯消毒用の大釜を据え付けた南竈、燃料を投入するための半地下式の焚場、焚場へ降りる階段、燃料の石炭を貯蔵するための燃料室、排煙時の火の粉や煤を減らすため大きくカーブした煙道、煙道につながる煙突などがまとまって発見されました。

釜場の操業時期は、明治時代後半から戦前までとみられ、廃絶後は鉄製の竈道具がそのまま残されていたほか、酒蔵から出たとみられる瓶など不用品が捨てられていました。

写真2 北竈遺物（瓶）出土状況（南東から）

北竈から出土した大量の瓶の中には底に「GK」の刻印があるものがあり、これはゴールデンケリーパテント香料製の食用香料瓶です。中には「Lemon Essence」と印刷されたラベルが残っていました。また、底に扇形の刻印のあるものは塩野香料製の香料瓶で、これらはいずれも成形技法から戦前のものとみられます。

北竈で使用されていた耐火レンガは「ＳＨＩＮＡＧＡＷＡ」刻銘から旧品川白煉瓦（現（株）品川リフラクトリーズ）製であることが分かりました。刻銘や文様の特徴により1904年（明治37年）から1939年（昭和14年）までの間に製作されたと考えられます。当時、この地で酒蔵を経営していた木村酒造から賀茂鶴酒造へと移行する時期とも合致しており、西条の酒蔵の歴史を明らかにするとても貴重な資料です。

写真3 釜場に使用されていた刻銘入りの耐火レンガ

このほか調査区の南側からは壁土を含む焼土層が検出され、江戸後期の礎石建物も見つかりました。焼土については四日市宿で江戸時代に何度か起こった火災によるものと考えられ、特に江戸時代の前期には大火災があったと伝わっています。

これらのことから西国街道に面したこの場所が近世の町屋から近代の酒蔵へと継続して利用されていたことが明らかになりました。

西国街道沿いの町屋跡を確認！

四日市遺跡（西条上市町）

写真4 西国街道の側溝と考えられる石組みの水路（南東から）

平成30年度からは道路工事に伴う四日市遺跡の発掘調査を実施しています。調査の結果、近世から近代にかけての石列や溝状遺構、柱穴、埋甕、埋桶、漆喰貼土坑などを検出しました。調査地点は西国街道に面し、街道と町屋の間に設けられた石組の水路が発見されました。遺物は土師質土器、陶磁器、石製品、木製品のほか、金属製品、古銭、瓦など多種多様に出土しています。また須恵器や亀山焼（岡山県倉敷市の焼物）など四日市宿成立以前の遺物が出土し、古い時代から人々が生活していることが確認されました。

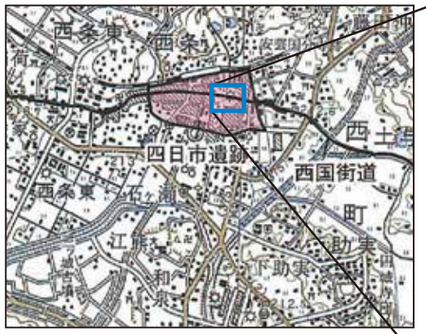

図1 四日市遺跡の範囲

図2 平成29年・平成30年の発掘調査範囲